

平成 22 年度 事務事業事後評価調書 (平成 21 年度事業)

整理番号 8 - 45

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		救難所整備事業					
評価者	担当課名	産業振興課		担当係名		水産係	
	管理職	職名	課長		作成者	職名	課長補佐兼水産係長
		氏名	石井 弘道				氏名
事業の概要	海難事故防止を基調とする救難体制の確立を図り、併せて、財産の保全及び人命救助を目的とし、地域の奉仕に努める日本水産救済会雄武救難所に対し補助金を交付している。				全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 500 千円 事業費計 500 千円		
実施方法	直営	民間委託		その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業		非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武 ~ 地域産業の振興 ~					
	基本施策	3 水産業の振興					
	単位施策	2 経営基盤の強化					
	事務事業の種類	自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	100 千円	100 千円	100 千円	100 千円	100 千円	
	合計	100 千円	100 千円	100 千円	100 千円	100 千円	

132

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	日本水難救済会雄武救難所	望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	所員の身分保障	海難事故防止活動			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	海難事故に対する迅速な対応	指標 (指標計算式 / 解説)	海難事故防止活動回数	目標値及び実績値	
				目標年度	平成21年度
				目標値	3 回
				実績値	6 回
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	救助体制の強化及び各種訓練、講習会参加等により、海難事故等に対応する体制の確立			達成度	200.0 %
				目標年度	
				目標値	
				実績値	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
事業実施機関への助成	海難救助訓練、青い羽募金活動、海難防止パレード等を実施している日本水難救済会雄武救難所に補助金を交付した。				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか、当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	漁業者及びプレジャーボート等への漁港解放による一般利用者への海難防止対策を図ることから、町の取組みは必要である。(8月22日、雄武川河口における人命救助により、興警察署より感謝状及び紋別海上保安部長より表彰状が授与されている。)
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	海難事故等に対応する体制づくりが図られている。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	海難事故防止等に対応する体制づくりに対する補助金であり、事業費削減に努めている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	本事業は、漁業者のみならず一般利用者による海難事故の発生が危惧される今日、救難所体制の確立は必要不可欠であり、事業主体が全体事業費の約94%を自己財源としている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
毎年実施している救助訓練等により、突発的に発生する海難事故に対応する体制が整っている。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
	継続 / 現状維持 本事業は、海洋レジャーの普及やプレジャーボート等への漁港開放等、漁業者のみならず一般利用者による海難事故の発生が危惧される今日、ボランティアによる救難所体制の確立は必要不可欠であり、継続して事業を実施すべきである。 *展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止		

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--